

すばらしいホタルと未来の子供たち に思いを馳せ

津久井美智子

7月29日、ホタルもヘイケボタルに変わって数もだいぶ少なくなってきた時期でしたが、わが家にちびっ子農業体験学習で橋北小の4年生3人が来ました。

夜ホタルの話をするとき、たいというので出掛けました。ちよようど信ちゃんが来ていたのでいろいろ説明してもらい、3人ともとても感動していました。ホタル学習もでき、翌日の感想文には農業体験と同じ位、ホタルを見たときの感動を書いてくれました。ホタルを見て喜んでくれると活動を続けてきてよかったですと心から思います。来年も多くの人に見てもらえるといいなあ。

ホタルに思う

狩野真弓

ホタルを見ていると読み聞かせで読んだ「とべないホタル」というお話を思い出します。その本はホタルの子供たちが初めて飛び立ち一匹だけ「とべないホタル」がいます。みんなはそのホタルを気遣い、思いやり、その思いやりに涙をこぼす。やさしさと思いやりがいっぱい詰まった本です。子供たちにもホタルを通してやさしさと思いやりのある大人になつてほしいと願います。ホタルが飛び交う姿は幻想的で心が和み癒やされる「夏の風物詩」です。今の時代貴重なホタルに携わって活動ができるのは幸せです。これからホタル活動に参加していきたいと思います。そして毎年子供とほたる祭りを楽しみにしています。

ほたるの里を次世代に

津久井幸三

「宮田ほたるの里を守る会」に入会して4度目の夏が過ぎました。長男が幼稚園の頃は、今のほたる池のあたりの水路で虫かごに入りきらないほどのホタルを捕った記憶があります。夕飯を食べた後、ホタル捕りに出掛けるのが日課でした。明かりを消した部屋でホタルのまたたきを楽しみました。あれから20数年、今ではホタルの生息地の下草刈り、水路整備をしてようやく昔の情景が戻ってきました。ホタルのすみやすい環境を

整備しなくてはならないとは思っていませんでした。ホタルが乱舞する「宮田ほたるの里」を次世代まで伝えていけるよう、今後も微力ながらほたるの里を守る会の活動に参加していきたいと思えます。

夢へかなうもの

星野幸子

今年の夏に夢のような事が現実になりました。それは孫が大きな夢を自分の手でしっかりとかなうこと。小さい時から大好きな野球に出会い良き指導者の元、その時々に出会ったチームメイトとの力強いきずな、友情などがあり家族の協力と理解も得られました。高校の選択でも自分で決めたことを両親に話し、説得して突き進みました。それが良い結果となり3年後に夢が現実のものとなりました。高校球児の憧れの甲子園に出場して土を踏みしめ自分の持っている力を出し切り精いっぱいプレーで頑張りました。会員の子供たちも大きな夢を持って、それを自分の物とするように努力し、健康な体をつくりたくさんの友達を持って進んでください。

ホタルのミニ知識

シリーズ 2



博士のホタルの一生

- 問題7 ゲンジボタルの幼虫は次年の春まで水中で過ごします。それではその間、何を食べて大きくなるのでしょうか？
- ① 泥にいる微生物 ② 水中や水辺にいる虫 ③ カワニナ
④ 水路の落葉や周辺の枯草 ⑤ 野菜やごはん（おにぎりなど）
- 問題8 それではヘイケボタルの幼虫は何を食べていますか？
- ① 池の中にいる小魚や虫 ② おべんとう ③ カワニナ、モノアラガイ、タニシなど
- 問題9 ホタルの発生する水路などにいるカワニナはどのようにして子供を産むのでしょうか？
- ① 卵を産んで育てる ② 小さなカワニナの赤ちゃんを産む ③ 動物病院へ行く
- 問題10 それではカワニナは一日にどの位赤ちゃんを産むのでしょうか？
- ① 1個 ② 10~15個 ③ 100個
- 問題11 カワニナの寿命は？
- ① 3~5年位 ② 10年位 ③ 15~20年くらい
- 問題12 それでは産まれたばかりのカワニナの赤ちゃんの大きさは？
- ① 1~2mm ② 4~5mm ③ 6~8mm

※答えは8ページにあります